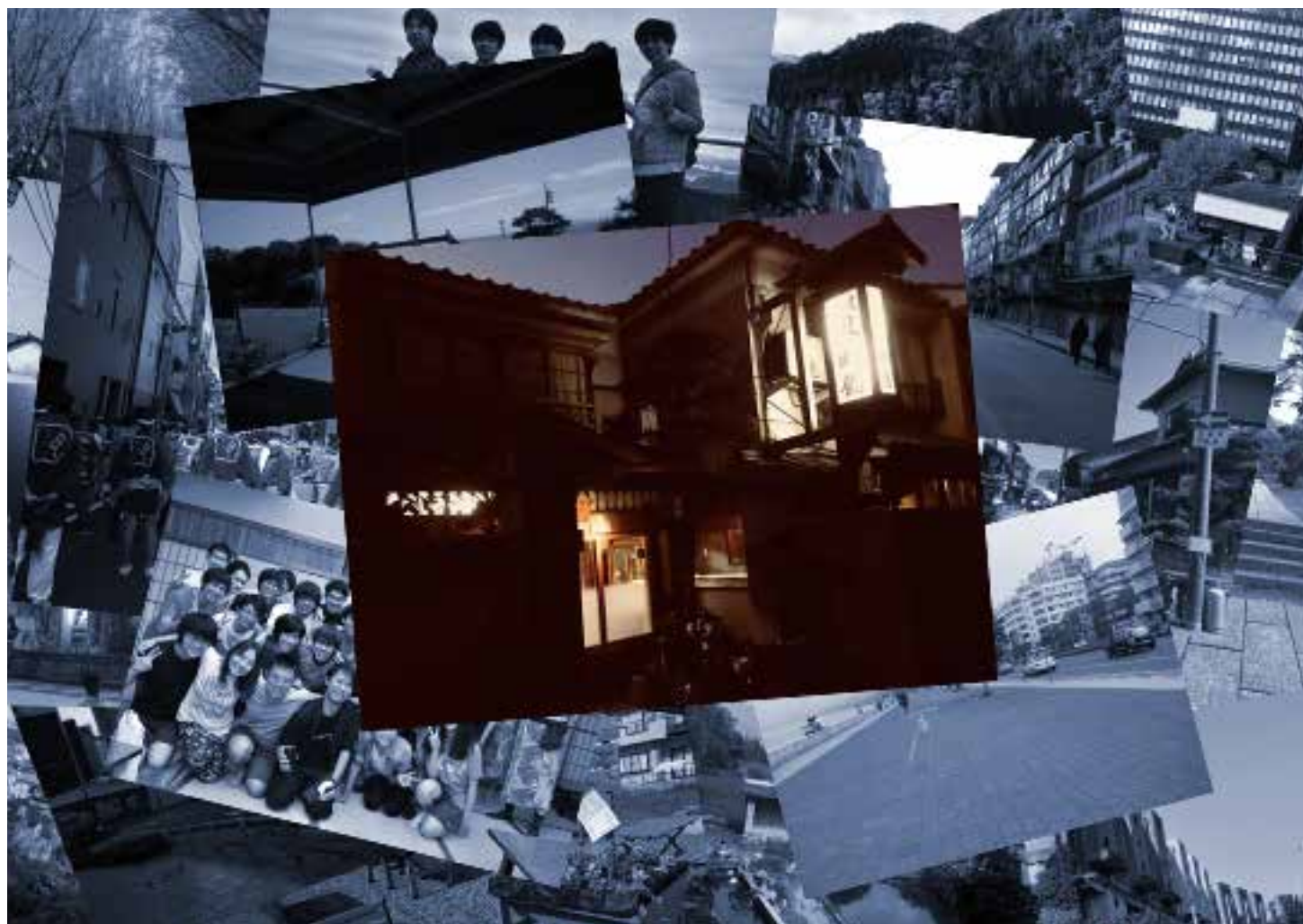


# Urban Design Lab. Magazine

2017.12.31 vol. 260



## 過ぎゆく年を刻む

The Record of the Last Year

東京大学  
工学部都市工学科/  
工学系研究科都市工学専攻  
都市デザイン研究室

<http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/>

「家族」の知の集積 -2017 年を振り返る  
先生方の 2017 年  
2017 年度プロジェクト総覧  
今年の一枚  
都市デザイン研究室 2017 年カレンダー

p.2  
p.4  
p.6  
p.10  
p.15

編集長： 松田季詩子

編集委員： 神谷安里沙 田中雄大 中村慎吾  
岡山紘明 但馬慎也 中戸翔太郎



# 「家族」の知の集積 —2017 を振り返る—

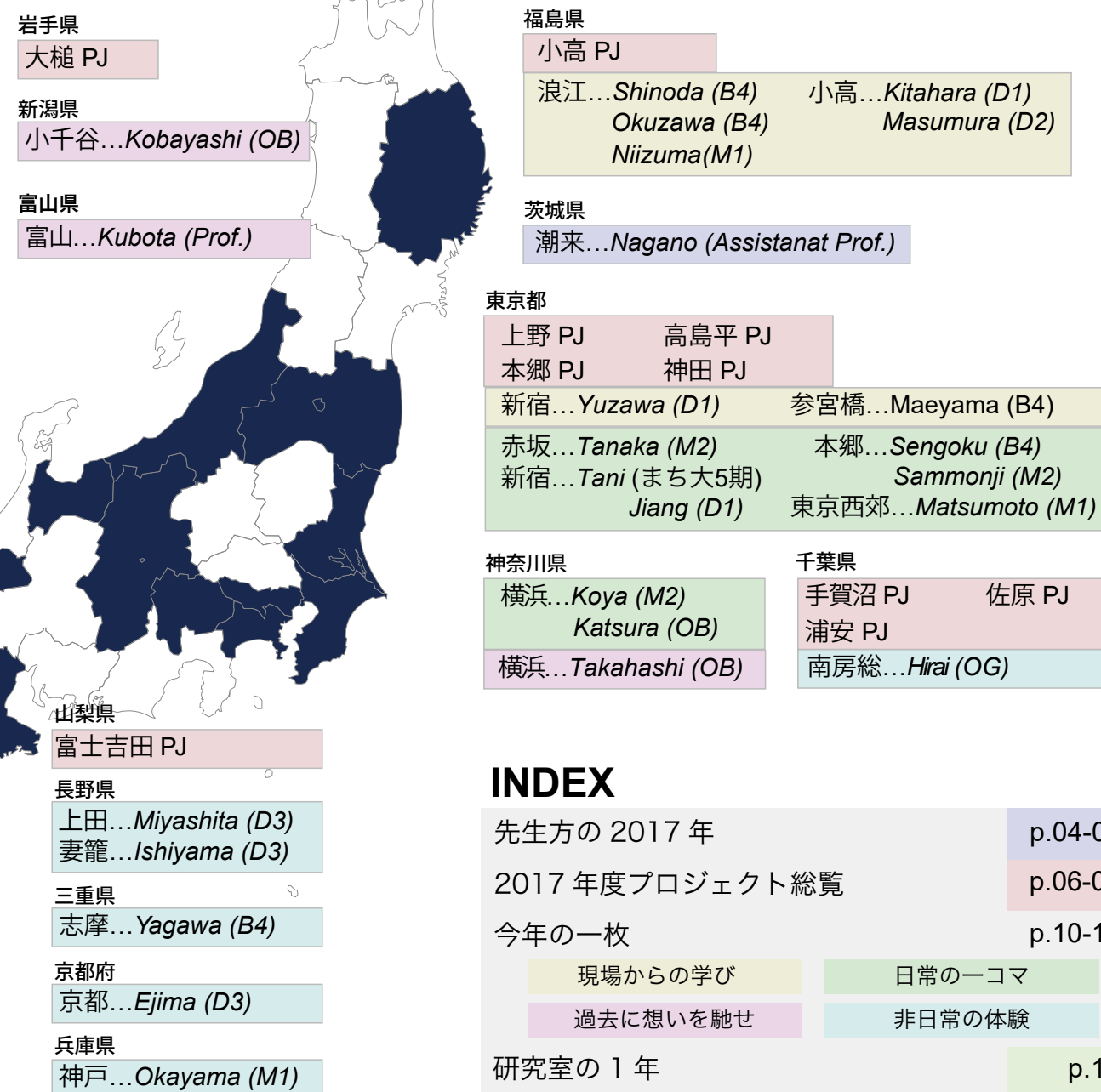
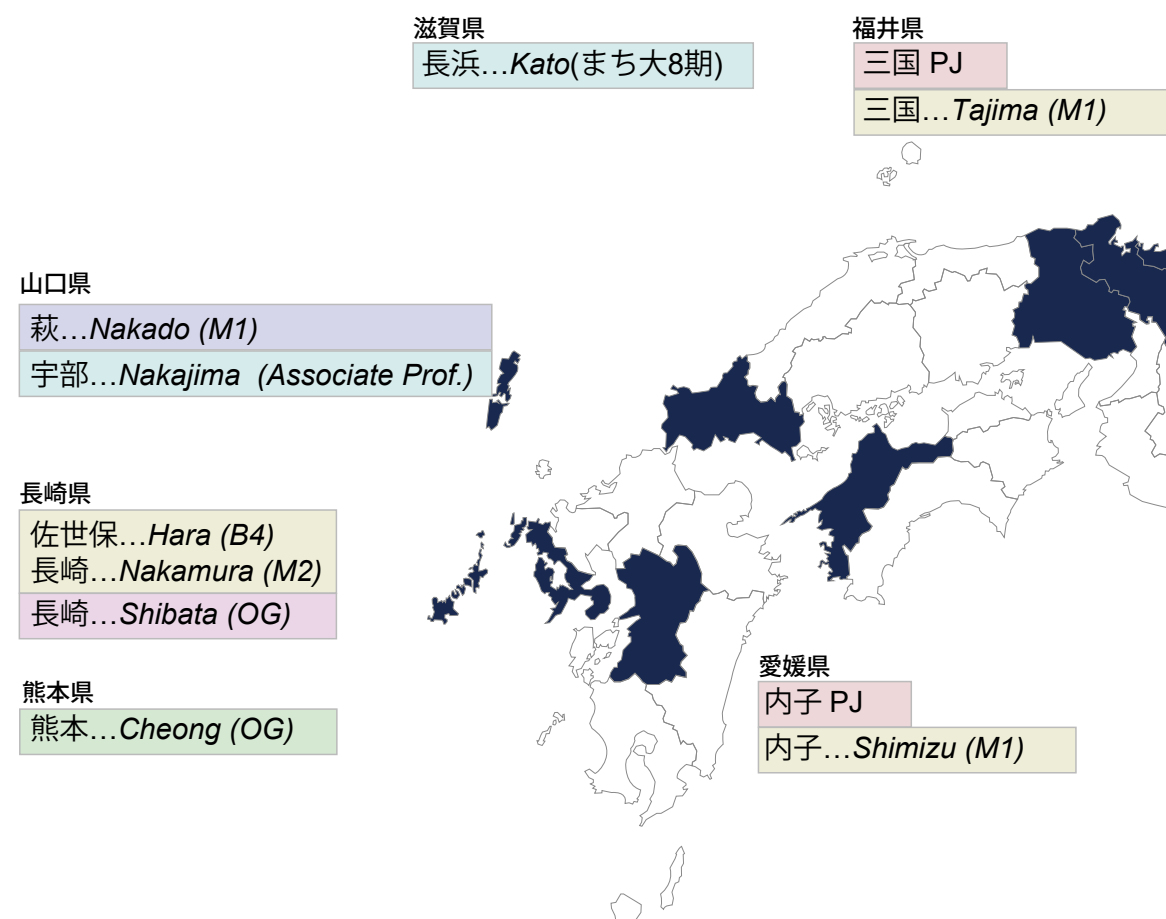
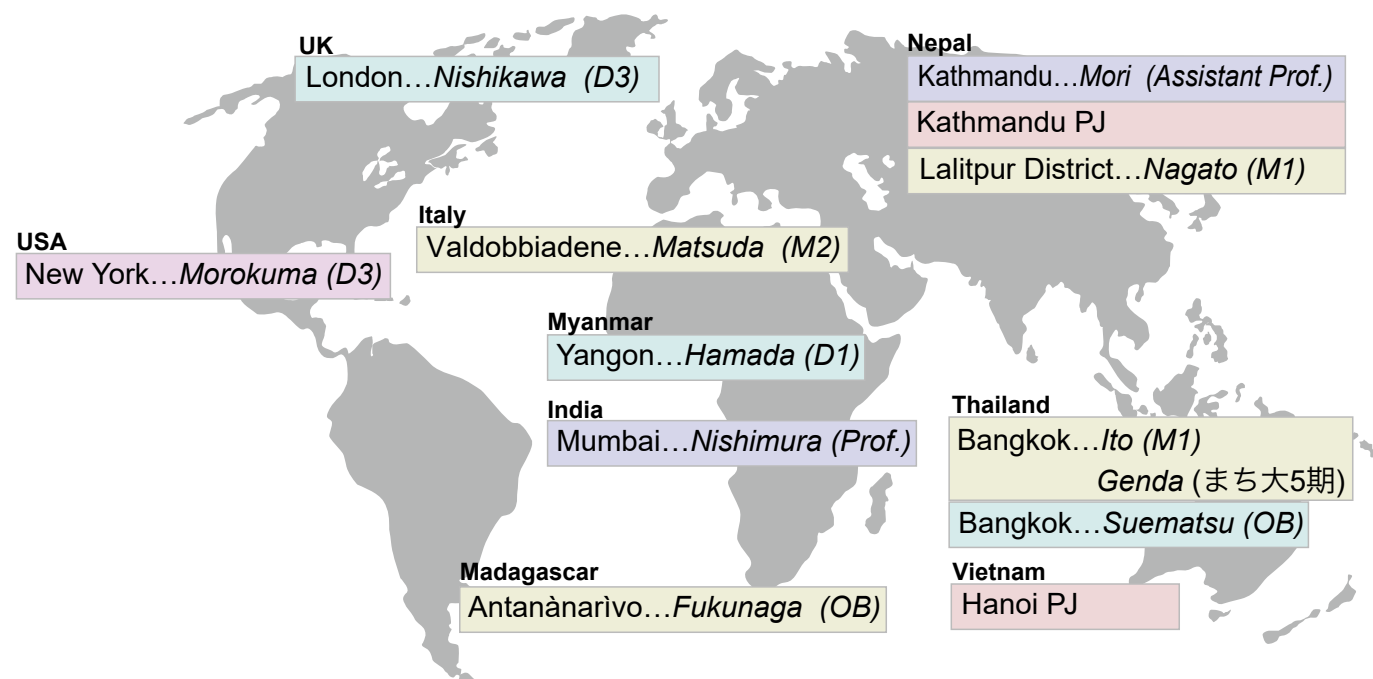
The Experience of the Urban Design Lab. -Talking about 2017 with Family-

今年も早いもので 12 月となった。この時期になると様々な場所で忘年会が開かれるようになる。

その年の苦労を忘れるために行われる忘年会であるが、私たちが色々ところで積み上げてきた 1 年間は、決して忘れてはならない。

今月号は年末の特集号ということで、個人の、プロジェクトの、研究室の、それぞれが積み上げた今年の活動を記録している。

年に一度、「家族」の一堂に会するこの場で、今年を振り返りつつ、来年に向け語り明かす種になれば幸いである。



## INDEX

|                 |         |
|-----------------|---------|
| 先生方の 2017 年     | p.04-05 |
| 2017 年度プロジェクト総覧 | p.06-09 |
| 今年の一枚           | p.10-14 |
| 現場からの学び         | 日常の一コマ  |
| 過去に想いを馳せ        | 非日常の体験  |
| 研究室の 1 年        | p.15    |





# 先生方の 2017 年

Our Teachers Work Around the World!

2017 年も残すところあと約 2 週間。一年中駆けまわる先生方には、印象に残った風景を添えて、今年を振り返っていただきました。それぞれ異なるフィールドでご活躍される先生方の一年間の思いが詰め込まれています。最後には、2018 年の目標と、研究室の学生へ向けてのコメントもいただきました。



## 西村 幸夫 教授

ー 2017 年を振り返って  
今年は最後の宮仕えの年ということで、いろいろこれまでにないことをやってきました。ひとつは講義に工夫したことで、3 年生向けの「都市保全計画」では、これまで学生が知っておくべきことを講義していたのをすっぱりやめて、自分がしゃべりたいことだけを講義しました。それは県都をどう読み解くか、ということでした。不思議なもので、自分が面白いと思ったことをしゃべることのほうが学生諸君には受けが良かったようで、今年の都市工のベストティーチングアワードを頂くことになりました。こんなことなら、これまでも好きなことだけ講義していればよかったのかと思うと、いままでの 30 年間の講義はなんだったのかと釈然としない気がします。来年はさらにわがままに、自分のやりたいこと（だけ）を追究していてもいいのか、と思ったりしています。

### ー 研究室の学生に一言

2018 年 4 月から研究室の風景も少しは変わるかとは思いますが、おそらくこれまでと同じように時間は過ぎていくでしょう。自分は何をやったら、自分の青春に後悔しないでいられるか、それぞれが苦悶するなかでみずからの行く道を見つけていくしかないのだと思います。皆さんの健闘を祈っています。

皆さんの健闘を祈っています。



## Mumbai / India

イコモスのとあるミッションで今年の 9 月に行ったインド・ムンバイの海岸通りのアールデコ建築群。この商都にこうしたリッチな邸宅が建ったのは、アメリカの南北戦争でアメリカからイギリス向けの綿花の輸出が途絶え、そのかわりにインド産の綿花の輸出港としてムンバイが栄えたことと、アヘン戦争による富の蓄積があったから。つまり、世界史上の出来事が地区の風景を生み出した例。



## 森 朋子 助教

ー 2017 年を振り返って  
早かったようで、個人的には考え悩む一年でした。一方で、ネパールへ（今年 7 回！）、パリへ、そして清華大学、ソウル大学のキャンパスを東京大学と比べて見られた一年でもありました。日本を離れる機会が増えると、昔留学中に抱いた日本人であることの自覚が蘇り、自国を知りたくなっています。外国の友人から、日本は西洋の仕組みを日本流に解釈していち早く取り入れたが、それはどうしてできたのか、との難問が……。ネパールでなかなか進まない復興の実態に触れ、一長一短はあるでしょうが、改めて関東大震災や戦後の日本に思いを馳せた年でした。

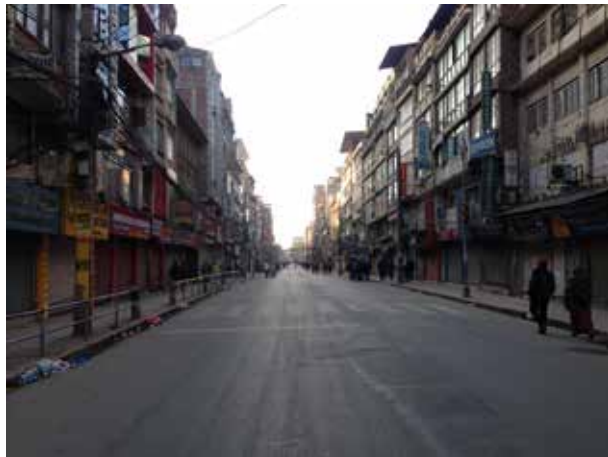
### ー 2018 年に向けて

ある企業の創業者の一文を、折に触れて読み返します。その方の座右の銘である「因果俱時」、現在の自分は過去の積み重ねの中にあり、将来の自分がどのようになるかは、今日一日にある。特別な年にしようなど気負うことなく、頑張っていきたいと思います。

### ー 研究室の学生に一言

色々興味の向くまま手を広げると、なんでも手に入るように見えて、実は何も掴んでいなかった……。こういった経験、既にされた人もいるかもしれませんが。目の前のことを丁寧に。欲張らずに、頑張りましょう。

目の前のことを丁寧に。



## Kathmandu / Nepal

12 月 7 日、新憲法制定後初の国政・州議会選挙が行われたカトマンズ市内。選挙の不正防止のため、公共交通機関も運休し、登録車両以外走行が禁止され、静まり返った市内中心部。交通渋滞が日常茶飯事の街が、一転して歩行者の街となり、道路に出て写真を撮る人も見かけられた。



## 中島 直人 准教授

ー 2017 年を振り返って  
今年は上野、高島平、富士吉田などのプロジェクトを通じて、学生たちとよく議論ができて、楽しい 1 年だった。個人的にこの 1 年で大きな仕事をしたという感覚はないが、これまでの仕事の整理が一応ついたり（単著が 2018 年 3 月に出るはず）、来年度以降の大事な仕事の仕込みをしたり、忙しい 1 年だった。私ごととしては引越しを二回行い、ようやく落ち着いたとともに、住宅ローンというものによって、自分の人生の残り期間を具体的な数字で思い知らされることになった。さて、来年は研究室として大きく環境が変化する年で、その変化をどのように受け止めて活動を先に進めるかが問われる。研究室としてはピンチかも知れない。実力が試される 1 年になりそう。実に楽しみだ。  
①今年、残念だったこと：谷口ジロー氏の死去。もう新しい作品には出会えない（2 月）。②今年、出会って嬉しかったエッセイ：小宮賢一「湖底の故郷」（『新都市』、創刊号、38 頁、都市計画協会、1947 年）「沈む村を故郷にもつ人々のために、せめて後々思い出の扉をひらく鍵になるような物を残してやれないものか、そうすることが都市計画家の義務ではないかと、私はいつも思いつづけてきた」。本当の都市計画家の自然な心情（3 月）。③今年、思い切ったこと：自宅購入。ようやく杉並に定着（9 月）。④今年、感銘を受けた展覧会：「毕业于宾夕法尼亚大学的第一代中国建筑师展（The First Chinese Architects Graduated from University of Pennsylvania）」（江蘇省美術館旧館 / 南京市）。人物を通して中国の近現代建築・都市計画草創期の気概がひしひしと伝わってきた（12 月）。

### ー 2018 年に向けて・研究室の学生に一言

来年の抱負：「来年も自由に生きる。そのための努力を怠らない。そして、多くの人が自由に生きられる社会の創造に向けて、少しでも貢献する」。

来年は実力が試される一年になりそう。



## 宇部市（山口県）

忙しい一年の中のエアポケットのような時間。常盤駅（山口県宇部市）。次の列車まで 30 分。無人駅。誰もいない。軒が深めの休憩室からの風景は静か。9 月のはじめ、夏の終わりの始まり。一年の折り返し地点。すっと頭の中が整理されていく。私は今、人生の折り返し地点にいるのかも知れないとふと思った。



## 永野 真義 助教

ー 2017 年を振り返って  
本業の他に、プラスαの活動を行うこと（私は「社会人の部活」と呼んでいます）が人生の糧になり、また本業を豊かにするはずだとずっと思っていました。例えば、業務時間外に友人の家を設計したり、自分の住む地域のまちづくりに参加したり。特に社会人になると容易ではありませんでしたが、個人的には今年、長崎である建物を保存活用する「邦久庵倶楽部」という法人を立上げ、ようやく「社会人の部活」を本格スタートできました。部活が忙しくなりすぎる時期もありましたが、充実を感じる平行的努力の時間でした。

### ー 2018 年に向けて

「社会人の部活」は色んなところに転がっているはずで、もっと小さな活動を増やしていきたいなと思いますし、もしかしたらその中から、新たな研究室プロジェクトも生まれてくるのだろうと感じています。

### ー 研究室の学生に一言

皆さんも研究・プロジェクト・バイト・遊びに加えて、自分なりの「部活」をぜひ探してください。プラスαが研究室にきっと還元されますし、皆さんの将来を豊かにする繋がりや思想に、きっと出会えるはずです。



自分なりの「部活」を探してみしてほしい。



## 潮来市（茨城県）

7 月末、3 年生の実習旅行（今年は茨城）を引率した際の、夜のひとコマ。夏学期、集合住宅地設計のハードな演習。議論に深く向き合い、共に闘い、少しずつの改善を重ね乗り越えた彼らが、この日御礼としてサプライズプレゼントを贈ってくれました。昂ような都市工の初心を思い出す、そんな宴でした。



## 2017 年度 プロジェクト総覧

今年度は新たに 3 つのプロジェクトが始動。都市デザイン研究室・地域デザイン研究室合わせて 9 つの PJ がアクティブに活動している。



●前年度、中島准教授と永野助教の『上野スクエア構想』委員会への参加

●プロジェクト報告会でお披露目。PJ として本格始動

●4 月上旬 キックオフ・ミーティング

●5/31 第 1 回『上野スクエア構想』委員会。過去の文献や古地図から、上野エリアに散らばる文化資源をピックアップした



●8/3 第 2 回『上野スクエア構想』委員会。文化の基層を調べ、設計提案を行なった



●9/27 上野副都心協議会。地元の方々の前で提案をプレゼン。地域を知る人ならではの厳しい意見も。熱い議論となった

●10 月中旬 不忍池のアクティビティ調査。PJ 参加者全員で池の使われ方や人々の振る舞いを記録した



●11/27 第 3 回『上野スクエア構想』委員会。調査の報告と『文化圏構想』の提案、詳細設計の提案を行なった

●12 月下旬 今年最後のミーティング。上野公園・上野動物園など、関係者へのヒアリング準備や、報告書の準備

年度末に予定されるシンポジウムでの発表や、来年度につなげるための最終報告書・ビジョン作成など。今までの作業のブラッシュアップを中心に。委員関係者とのまちあるきも。



●第 0 期工事実施、完了（設計者：永野助教）

●プロジェクト報告会にて、永野助教から新プロジェクトの紹介

●4/28 キックオフ MTG、プロジェクト始動

●5/4 初現地訪問

●7 月 基本計画立案。模型を使ってプレゼン。



●9 月 基本設計。敷地を念入りに調査し臨む。



●11 月 詳細の検討。樹木や材料などのディテールを決める。



●12 月 次年度以降エリアの設計

年明けから始まる工事を見守ると共に、それと連動して敷地境界の蛇籠フェンスに使う新材づくり WS を実施。次年度以降の範囲の設計にも取り組む。



内子町の歴史的風致維持向上計画策定のお手伝い。地域の風致や歴史を文献調査やヒアリングからまとめることや、今後のまちづくりの方針や具体的事業についての提案を行う。

●西村先生と TIT の方々による PJ 紹介が行われる。4 名の学生が集まり内子プロジェクトが始動する。

●5/26-27 最初の現地訪問  
内子町職員の案内で、町で大切にされてきた町並み、村並み、山並みを見学。原広司の大瀬中学校も見学させてもらった。



●8/21-26 現地調査  
伝建地区内の住民や商店街の方々、地元の職人へのヒアリングを実施した。また五十崎地区を歩き、建物の特徴などを調査した。

●8/24 第一回（内子町歴史的風致維持向上計画）策定委員会  
今までに調査してきた内子町の風致についての資料作成と発表を行った。

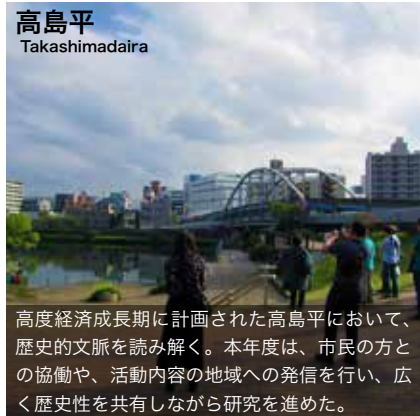
●10/22-24 現地調査  
立川地区のお祭りの見学や、大洲市街の様子など、内子の中心部以外を見学。特に五十崎・天神地区の方への調査を重点的に実施。



●12/1-6 四度目の現地訪問  
●12/5 第 2 回策定委員会  
まちの職員の方と連携しつつ、風致案のまとめなどの会議資料作成を行った。作業は夜まで続く密度の濃い滞在であった。



まずは年明けに控える 3 省庁会議に向けて風致案や事業案の修正を行う。それと共に、具体的な空き家活用の提案も行う。計画策定以降も関われるように活動の幅を広げたい。



高度経済成長期に計画された高島平において、歴史的文脈を読み解く。本年度は、市民の方との協働や、活動内容の地域への発信を行い、広く歴史性を共有しながら研究を進めた。

●1/11 文献調査を経て、高島平まちあるき

●5/25 新 M1 を交えて 2017 年度第一回ミーティング

●6/5 高島平観光協会(仮)との意見交換。「高島平ヘリテージ」プロジェクトの立ち上げを決める。

●7/8「高島平ヘリテージ」PJ キックオフミーティング。高島平住民の方と共同で行うプロジェクト活動の開始。



●8/3 第 2 回「高島平ヘリテージ」PJ ミーティング。区画整理以前の巨大な住宅地図で議論は大盛り上がり。

●9/28-10/1 高島平プロムナード活用実験にて「高島平ヘリテージ」PJ 活動の紹介と高島平ヘリテージテーブルを展示。実際に歴史を体感する高島平ヘリテージまちあるきを実施。



●11/21 第 5 回「高島平ヘリテージ」PJ ミーティング  
崖上の町に昔からお住いの方をお呼びして、当時の様子や今に残る歴史について議論。崖上との繋がりから高島平を見る展開へ。



周辺地域との繋がりから高島平の形成を見ると、昔の様子を知る方を交えた議論が続けていきます。また、将来的に調べてきたことを発表できればと考えています。



世界文化遺産に登録された富士山の麓の御師の慣習が息づく富士吉田のまちづくり。近年中に行われる道路拡幅による町の骨格の変容と短期的な住民参加の 2 つの視点から参加している。

●3/31 2016 年度報告書作成

●5 月 キックオフミーティング

●6 月 第 2 回横町勉強会  
昨年度の報告に加え、住民の方と道路拡幅について 1/200 模型を用いて考えたり、今年度中に行う短期的アクションについても考えた。

●8/11 行灯絵描きイベント&駐車場看板調査  
西念寺の境内にて行灯の和紙に地元の方が絵を描くイベントを行った。また、既存の看板デザインがどのようなものか調査。18 日看板完成。



●8/26 ふじの火祭り & 駐車場看板調査  
火祭り全体の見学と、横町の様子を調査した。駐車場看板変更後の使われ方の変化も調査。



●9/23 行灯点灯式  
8 月 11 日に作成した行灯を大門に並べる点灯式を行った。今後はイベントなどの際に定期的に並べられるよう検討中。



●10 月 住民の領域調査  
横町の住民の方がどのような社会的領域、空間認識を持っているか、ヒアリングを通して調査＋空き家見学と道の使われ方調査も行った

●12/10 第 3 回横町勉強会  
夏の調査やアクションの報告と、道路拡幅に起因する道路交通に関して住民の方と議論した。

2017 年度は調査、アクションの両輪でそれらを取りまとめて、今年度分の報告書として提出する作業がメインになるのかと思います。



2015 年のネパール地震で甚大な被害を受けたカトマンズ盆地の伝統的集落。それらをどう保全していくか、集落の「空間構造」×「保存度合い」の 2 軸から考える。

●2 月末：前年度分報告書提出。

●5/9 キックオフ・ミーティング。

●6/14-18 現地渡航①。Khokana での集落調査・現地 WS と、他集落のプレ調査。



●9/4-14 現地渡航②。伝統的集落の悉皆調査。地形・空間構成・都市構造・近代化度合いの特徴を掴む。



●12/2-11 現地渡航③。9 月渡航時の調査を継続。空間構成の基礎となる要素にフォーカスし、より精緻な調査を目指した。



●12/25-28 カトマンズ盆地歴史的都市集落保全に関する市長フォーラムへの西村先生ご登壇。ならびに、引き続き集落調査。

今年度分の調査成果を報告書に。広域的な調査ゆえ「調査成果をどう分析して説明するか」がより一層重要となる。調査成果が有用で説得力ある知見につながるよう、鋭意努力する。





● 2/23 まちなか菜園 PJ のキックオフ  
災害公営住宅に住む住民同士のつながりの場作りを目指し、敷地内で菜園を作るためのワークショップを住民と開催した。

● 5/21 浦尻未来検討会開催  
浦尻行政区の今後についての検討会を行政区と協力し、12月までに計6回開催。農地や宅地の管理について考えていった。



● 7/23 まちなか菜園収穫祭  
2月に始まったまちなか菜園の収穫祭を災害公営住宅の住民と行い、収穫した野菜を使ってカレーを作った。

● 8/4 市長報告  
南相馬市長に復興デザインセンターの活動報告を行った。

● 8/5 ひまわり迷路イベント  
耕作放棄地を利用して住民がひまわりの種を植え、センターが迷路を設計、作成を支援した。県内中から多くの人が訪れた。



● 10/16 まちなか菜園第2弾始動  
まちなかの空地に、脚付きプランターを利用して菜園を作るまちなか菜園第2弾を始め、担い手を住民から募った。



● 12/22 行政区長会での報告  
デザインセンターのこれまでの活動を、行政区長会議にて報告する。

まちなかでは菜園などのつながりの場づくり、集落部では行政区の自主性を尊重したまちづくりを通じて、人口減少化における宅地農地の適切な土地利用の方向性を探っていく。



古くからの漁師町だった浦安市・元町地域。今年度は防災まちづくりの観点で住民勉強会を進める浦安市と協力しながら、まちの資源を生かしたまちづくりを構想している。

● 5/11 年度初ミーティング

● 6/23 冊子「よみとき浦安元町 Vol.1」完成、市長への贈呈式



● 8/2 浦安市+マヌ都市建築研究所 プロジェクトミーティング

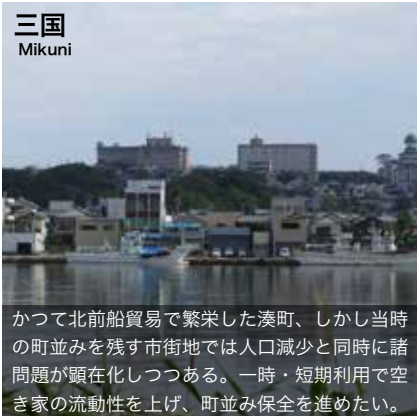
● 9/21 空き家概況調査



● 11/11 浦安市主催「第1回防災まちづくり勉強会」総合ガイダンスにて、東大チームの成果を発表



年度末にかけて、空地利用の緑台や植栽づくりなどのワークショップを通じて実際にまちに関わることができないか模索中。



かつて北前船貿易で繁栄した湊町、しかし当時の町並みを残す市街地では人口減少と同時に諸問題が顕在化しつつある。一時・短期利用で空き家の流動性を上げ、町並み保全を進めたい。

● 2/19 2017 年初訪問、3.5 月のイベントの打ち合わせ。  
● 3/30 2016 年度活動の集大成となるシンポジウム「三國湊まちづくりフォーラム」を三國會所と共同開催し、活動報告を行った。



● 5/19,20 三國祭。日付は毎年変わらず、今年は金・土に開催された。

● 5/20 三國祭社会実験「貸し座敷ファンディング」の開催。所有者の方の協力を得て、山車巡行路に面した家屋を一時利用し、宴会ともてなしの場とした。



● 7/31-8/11 夏季調査「建物歴史ヒアリング調査」。住民のべ50人弱、ヒアリング時間約60時間に及ぶ大調査で、移住、移転等、建物と家族にまつわる詳細な情報を得た。  
● 8/2 企業調査プレ打ち合わせ。三國と近くの工業地帯とを結び、ゆとりある職住近接構想。

● 10/9 夏季調査の中間報告+ワークショップ「住まいの将来相談会」は、住民の方々と直接議論する新しい切り口の試みとなった。―「将来は考えていたが、それを他の人（住民同士、学生、行政）と共有する場はなかった」



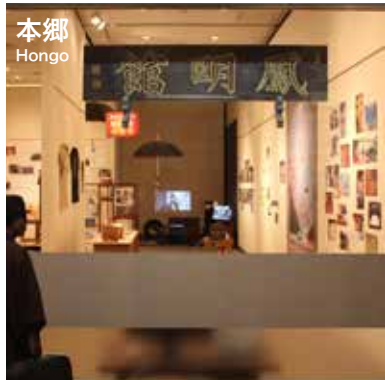
● 11 月下旬 ワークショップのまとめ

沢山の発見、動きがあった1年。「地元内での土地建物の流通ルート」「住民同士が将来を話し合う場の必要性」など、得た知見を深め、様々な立場や事業のプラットフォームとなるUDCの設立に向け、公民学での連携準備を進めてゆく。

## 都市デザイン研究室／地域デザイン研究室のプロジェクト

近年の都市デザイン研究室・地域デザイン研究室では、毎年4月にプロジェクト報告会を行う。担当する先生たちやM2・Dの学生が自分のプロジェクトについての紹介を行い、新しく研究室に入ったM1たちがどのプロジェクトに参加するかを決める、というのが一般的な流れになりつつある。これまで見てきた9つのプロジェクトも、今年の4月の報告会を経て新しくM1が参加し、先輩方の経験と蓄積を受け継いだものであったり、あるいはM1が初期メンバーとなって動き始めたものである。

しかし、プロジェクトはこれだけではない。当初の成果をあげて一旦幕を閉じるプロジェクトや、個人的・小規模に行なっているプロジェクトなど、新しくメンバーを募集しないものもいくつかある。ここでは、報告会でのメンバー募集はしなかったものを紹介する。



今年度は東京文化資源会議の協力のもと、『本郷のキオクの未来』として文京建築会ユースや地元企業・大学・地域住民とともにさなる活動を行なった。地域文化の記録活動として、冊子「菊湯湯にありがとう」の発行や「歓迎！本郷旅館街」展などを実施した。また「本郷のキオクを考える昼／語る夜」・「本郷キオク散歩」・「本郷のキオクを語り聞く会」といった地域密着のイベントも開催。



上水道整備の進むハノイの郊外集落を対象に、井戸や池など伝統的な公共空間の変容を追う研究ベースのプロジェクト。都市デザイン研究室OGのLe Quynh Chi先生（ハノイ土木大）をカウンターパートに、荒巻俊也先生（東洋大学）などとともに進めている。今年は8月に4つの集落を訪れ、各家庭でのアンケート調査やコミュニティリーダーへのヒアリングを行った。来年も研究成果となるよう継続して行っていく。



地域資源の発掘・共有と地域の担い手づくりを目指し、主に子ども向けの活動を展開。2月から3月にかけて、地元小学校などと連携して万灯制作ワークショップを実施。5月の神田祭では、制作した万灯を活用して万灯持ち体験イベントを企画した（雨天により実現ならず）。現在は活動休止中であるが、これまでの活動の成果やノウハウを地域の主体へいかに受け継ぐべきか、検討を行っている。

## プロジェクトを総覧して

こうしてプロジェクトをまとめてみると、その数の多さ・活動の多様さに驚かされる。研究室の足元、本郷や上野など東京都市圏に根を下ろしているものもあれば、東北から四国まで、全国各地で地域に入り活動しているもの、海外で調査を行なっているものまである。特に今年は3つのプロジェクトが新たに始まり、かつてないほど賑やかになっていると思う。実際先生方に聞いて見ても、「私の時代にはプロジェクトは1つしかなかった」とか、「今みたいにくつも掛け持ちはしていなかった」という声もある。学生から見ると、選択肢が多いことは自分の興味のある分野が見つけやすいという点ではいいことかもしれないけれど、一方でもしかしたら、いくつものプロジェクトに惹かれて1つのものに集中する機会が得られなくなっているのかもしれない。

また、新しく始まるプロジェクトもあれば、幕を閉じるプロジェクトもある。プロジェクトの終わり方も、ただそこで終わってしまうのではなくて、今までの蓄積を新しくその地域を担っていく主体に引き継いだり、そのプロジェクトで得たノウハウを研究室に還元できるような、そんな有意義な終わり方ができてようやくプロジェクトが完結するのかもしれない、ここしばらくのプロジェクトを調べていて感じた。（文責：中戸）



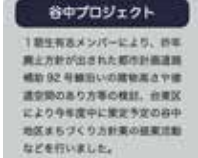
赤浜集落の復興について、空間計画に携わった窪田先生、黒瀬先生（九州大）、土木設計者・上條氏を中心に検証している。区画整理や防集団地の造成完了を迎えつつある中、地域性を継承した計画となったか、計画検討・事業実施プロセスにどのような課題があったのか、住民や関係者へのヒアリングを交えながら議論している。来年のとりまとめ・書籍化に向けて最終的な議論を深めていきたい。



重建の歴史的町並みが残る千葉県北総の佐原において、2009年より観光客の回遊性の向上、住民の生活の記憶継承など様々な調査や提案を行ってきた。現在は2015年から始まった、次世代の担い手である高校生を中心とした多主体連携まちづくりと、歴史的建物を活用した活動拠点「さわらぼ」の成果を取りまとめるべく報告書を執筆中。活動自体も佐原現地の方々に引き継ぐべく調整に努めている。

## かつてのプロジェクトたち

- 昨年度の都市デザイン研究室マガジン (vol248) より -





# 今年の一枚 ~Our Best Memories in 2017~

その年を象徴する1枚を添えて今年の振り返りを行う毎年の恒例企画「今年の一枚」です。今年度は、学部生からOB・OGの方まで幅広く募集しました。何を見て、何を感じ、何を考えたのか。あつまった写真を4つのテーマに分けて並べ紹介しています。是非ご覧ください。

## ▶現場からの学び（上野：8月号）



研究、プロジェクト、演習、都市を対象とする私たちは日々いろいろな世界に関わっている。そこで出会った風景や人々との出会いは、研究室の中には決して得られないものである。

## 内子町（愛媛県）



### Shimizu Hiroaki(UD/M1)

環境について深く考えた1年だった。

内子の自然、手賀沼のランドスケープ、女川の復興、西東京の農業と、様々な「環境」に思いを馳せたのが、田舎育ちの割にそちらへの関心が薄かった自分の今年のハイライトである。

## 坂井市三国（福井県）



### Tajima Shinya (UD/M1)

初めて訪れた5月。「こんな街何もないよねえ」と言う地元の方に何か悲しくなった8月。「住んでみたらどうだ」と言われすぎく悔しかった10月。たった半年でこんなに熱くなれるなんて。この時は想像できなかった。来年の自分はどうなっているのだろう。

## バンコク ルンピニー公園（タイ）



### Genda Yuta (OB/ まち大5期)

6年間に在籍したまちづくり大学院も2017年9月をもって修了することができました。お世話になりありがとうございました。この写真は、その修士論文「タイ・バンコクにおける国家・都市の近代化実験空間に関する研究—ラーマ6世治世期（1910-1925）を中心として—」の対象地の一つとなった、バンコクにあるタイではじめての大衆公園「ルンピニー公園」です。これからも都市・空間・文化・国際といったテーマをむすびつつ、研究を続けていきますので、引き続き宜しくお願いいたします。

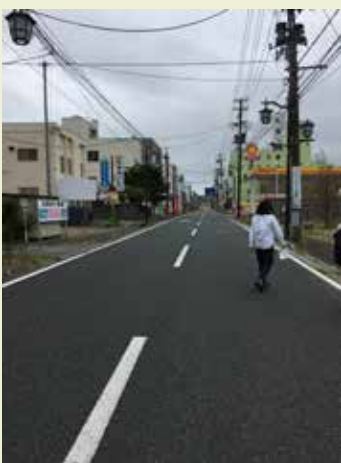
## 浪江町 まち・なみ・まるしえ（福島県）



### Shinoda Emi (TD/B4)

浪江町がいつもより少しにぎやかになる、毎月第2週の週末の「まるしえの日」の様子です。大学最後の演習として浪江町に向き合ったことで得た学びや抱いた思いは、いつまでも自分の中に残り続けると思います。

## 浪江町（福島県）



### Okuzawa Rieko (TD/B4)

まちの中心の、新町通り。卒業研究で災害復興をやるうと被災地をめぐった中で、オムニバスでこの避難指示解除直後の浪江町まちなかをじっくり議論したことが、自分のひとつの想像力、思考の基となり、印象的な光景と経験になりました。

## Bulu Village in Lalitpur District(Nepal)



### Nagato Wataru (TD/M1)

集落の片隅に置かれた小さな水場。水利に恵まれない村だからこそ、人びとは限られた資源を分け合うべくこの場所に集まってくる。その風景に心惹かれてしまったのはきっと、山に抱かれた遠景の美しさのみに依るものではないと思うのです。

## 代々木4丁目（渋谷区）



### Maeyama Rinko (UD/B4)

卒業研究の対象地です。初めて自分で場所を選び、場所と向き合うという経験をしています。正直いろいろなことがらってきているのですが、先生や先輩方からのありがたい応援を受けつつ頑張っています。

## 西新宿2丁目 中央通り東信号付近



### Yuzawa Akiko (UD/D1)

かれこれ7年以上のお付き合い。違和感と親しみと不思議な縁を感じる場所。視点場なのか、単なる行き止まりか。課題意識を形にしたインターベンション(改修)が、来年竣工に向けついに施工準備入り。仕事に研究に更に深く関係していきたいです。

## 南相馬市小高区（福島県）



### Kitahara Marina (TD/D1)

福島県南相馬市の小高で、地域の方々と一緒にオープンさせたまちなか菜園の写真です。帰還されている住民の方々や移住者の方、小高復興DCのみなさん、都市デザイン研究室OBの鈴木亮平さんと一緒に汗をかきながらの作業は、とても楽しく、有意義な時間でした。

## 南相馬市小高区浦尻（福島県）



### Masumura Akinobu (TD/D2)

原発事故の避難指示が解除された集落で、集落の人たちによる未来検討会を、手探りで立ち上げようとしている話し合いの場面。

## 浪江町中心市街地（福島県）



### Niizuma Naoto (TD/M1)

三陸の津波被災地を扱った卒論を終えた翌日、初めて原発被災地を訪れた。まちに人がいないその様子は衝撃的で、このまちが目指す復興とは何なのか、そして都市とは人がいてこそ成立するものであることを改めて考えさせられた。

## Valdobbiadene,Treviso,Veneto (Italy)



### Matsuda Kishiko (UD/M2)

冬のイタリアの調査へ。来てすぐに、雪の降る葡萄畑を登った。初めて見た町は、観光ハガキか鳥瞰図のようだった。自転車のカウンターが100kmほど回り、今はこの写真の中に、行き交う車や人、通りの1つ1つが見える。

## バンコク郊外（タイ）



### Ito Tomohiro (TD/M1)

住宅地での調査中に犬に追いかけられ、逃げ込んだ先の小さなお店。物珍しい日本人に「傘を持てると危ないのよ」と教えてくれたおばあちゃん。何気ないお店、何気ない椅子ですが、地域を見守る根強い包容力のある空間だなあ感じました。

## アンタナナリボ（マダガスカル）



### Fukunaga Tomoki (OB)

マダガスカル首都のアンタナナリボです。ここは丘の上から発展した街ですが、アフリカの他の多くの街と同様に、近年急成長しています。人々が丘を降り、街が広がる姿を想像して、計画をしています。

## ▶日常の一コマ（歓迎会：10月号）



普段見慣れている風景でも、改めて見直してみるとそこには沢山の発見がある。「あたりまえ」のものとしてとらえていると、その美しさにはなかなか気づくことができないのかもしれない。

## 東京西郊のとある大学



### Matsumoto Haruna (UD/M1)

大学と中学生とのコラボレーション。日も傾き、そろそろ肌寒くなる頃合い。中学生たちの帰宅風景に私自身が遭遇した、ただそれだけの出来事であるのに、武蔵野の秋色を探して歩き回った一日で、最も印象深く思われた光景だった。ふざけあい、じゃれあうからの姿と、それらを包み込む黄ばんだ雑木の天蓋の下に、自らの同世代の思い出と、この辺りをよく散歩した日々を懐古する。

## 神楽坂（新宿区）



### Jiang Min (UD/D1)

Street live & lively street  
神楽坂で大江戸めぐりの時に撮った写真です。道は歩行者用道路になり、本当に込んでいて賑やかでした。



本郷・菊坂（文京区）



**Sammonji Masaya (UD/M2)**

5年に1度の櫻木神社宮神輿。ようやく本郷に根をはれた気がする。

新宿ゴールデン街



**Tani Morihiro (OB/ まち大5期)**

久しぶりに訪れた新宿ゴールデン街。ちょっと不思議でしゃれた街灯に感心した。  
>> 突き当たりは花園神社。

横浜市（神奈川県）



**Koya Arisa (UD/M2)**

中学・高校は部活。大学入学後は課題で、修士入学後は大学が遠くなったからほとんど家にいなかった気がする。プロジェクトなどで他のまちのことを知るようになって、ふと気づくと家の周りのことを全然知らない。

赤坂（港区）



**Tanaka Yudai (UD/M2)**

大学に入学してから、実に様々な都市を訪れてきましたが、今年最も印象に残っているのは、不思議と、国会図書館からの帰り道に見た東京の風景でした。東京には知らない景色がまだまだたくさんありそうです。

熊本県立大学



**Cheong Ilji (OG)**

These are Korean OB and OG. We want to show our situation in Korea and Japan. We deeply thank to Prof. Nishimura's commitment on passionate education and inclusive social contribution. It will be the lantern to brighten our future Path. (Ms. NAM/Ms. SONG/Miss CHEONG/Mr. YOON)

▶過去に想いを馳せ（上拍：8月号）



先人が積み重ねてきたものの上に我々は立っている。その跡に思いを馳せることも時には必要だ。つぎへと引き継ぐものは何なのだろうか。

本郷・五月祭



**Sengoku Takashi (UD/B4)**

風景写真ではなく恐縮ですが、今年一枚でこれを超えるものはありませんでした。五月祭での渋谷 1/1000 模型の展示です。授業以外のほぼ全ての時間をかけて取り組んだのですが、よく知るまちを見つめ直すきっかけとなり、タイムマネジメントの重要性も再認識しました。

横浜市（神奈川県）



**Katsura Yukio (OB)**

2007年に北沢さんが開催した研究会＝UDSYで出会ったなぎなぎこと、山田渚さんがこの春から晴れて直属の上司になりました！（驚）学生スタッフとして研究会を引っ張っていた彼女に仕えることになるなんて、人生はおもしろいです。

ニューヨーク（アメリカ）



**Morokuma Benika (TD/D3)**

ニューヨークのサンセットパークというウォーターフロントの工業地帯の古い工場の中にいる服飾関連業者さん。扉を開けた途端に100年ぐらい前にタイムスリップしたかのような感覚を覚え、静かに興奮しました。

富山市・旧婦中町（富山県）



**Kubota Aya (TD)**

「用水路と排水路を別にした。それが復興だったと思う。克服したかと言われれば、わからない。でも克服の努力は続いている。それを支えているのは、加害企業と我々の緊張感ある信頼関係なんだ」。イタイイタイ病対策協議会会長、高木勲寛氏の言葉。

小千谷市三仏生（新潟県）



**Kobayashi Yohei (TD/D1)**

今秋、義理の父親を連れて生家があったルーツを探る旅をしました、80年前の記憶を辿りながら、地元の人に話を伺い、信濃川が見渡せるその場所に辿り着きました。人の原風景の意味を実感した旅となりました。

ロンドン（イギリス）



**Nishikawa Ryo (UD/D3)**

ロンドンのファサード保存の様子です。元々の建物は "Fruit and Wool Exchange building" で1920年代の建築とのこと。日本ではなかなか見ることのできない光景でした。左上が2016年の様子で、右下が完成予想図です。

長崎市（長崎県）



**Shibata Ayaka (TD/OB)**

長い時間の蓄積と忘れたい歴史、様々な思いを持った人々、多くの技術的課題。歩道橋の上から眺める風景は、将来を思い描くことの重みを強く感じさせてくれる。

▶非日常の体験（鞆の浦：9月号）



日頃いる場所から離れること。それは旅行だけでなく、仕事のついでということもあるかもしれない。初めての場所には、まだ知らない世界が広がっている。

産寧坂（京都府）



**Ejima Tomoyoshi (UD/D3)**

出張帰りに寄ったスタバです。スタバオープンの日でしたので、寄ってみました。景観の厳しい中でどのようなスタバになっているのか、インテリアデザインはどうなのか、メニューは特別なかなど、ワクワクで言ったのですが、かなり安全側のデザインで若干がっかりしつつ、安心したりと複雑な想いでした。

金沢シーサイドタウン（横浜市）



**Takahashi Masaki (OB)**

久しぶりに訪れました。当時のアーバンデザインの最先端にチャレンジした団地で、北澤先生もその当時、横浜市政府所のご担当として精魂を傾けられたと聞いています。緑も成長し、成熟した素敵な住宅地になっていました。

長崎市・池島



**Nakamura Shingo (UD/M2)**

4年越しの悲願が実り、池島に上陸。数奇な運命を辿った廃都市の有様に、いろいろなことを考えさせられた。

上田市前山寺（長野県）



**Miyashita Takahiro (UD/M3)**

三重塔が有名な前山寺の参道。160mほどの緩やかな坂道がひたすらに伸びているのですが、そこは本当に何もない空間。しかしそのことが、私たちに空間のもっている「時間」を感じさせ、自然と姿勢を正し、参道の終着点にある三重塔へと意識が向きました。



## A photograph of a cemetery in the town of Kani, Japan. The foreground is filled with numerous stone grave markers of various shapes and sizes, some with inscriptions. The background shows a dense forest of trees with autumn foliage in shades of green, yellow, and orange, set against a backdrop of rolling hills under a cloudy sky.

## A photograph of two men and a large red panda mascot. The man on the left wears a yellow vest over a dark jacket. The man on the right holds a red heart-shaped sign with the text "#CHIBA" and "CHIBA" below it. They are standing in front of a backdrop featuring a Japanese pagoda and the text "CHIBA!".

## A photograph of a traditional Japanese building, likely a residence or a small shop, featuring a dark tiled roof and a wooden veranda. The building is surrounded by lush greenery, including trees and bushes, and a grassy area in the foreground. The scene is captured in a slightly grainy, vintage-style photograph.

## A night photograph of the Shwedagon Pagoda in Yangon, Myanmar. The pagoda is a large, ornate structure with multiple tiers and spires, all of which are brightly lit with warm, golden-yellow lights. The central spire is the tallest and most prominent. The surrounding area is dark, and the foreground shows the silhouettes of several people standing and looking at the pagoda. The overall atmosphere is serene and majestic.

## 15





URBANDESIGN  
LABORATORY